

日本介護福祉士会 千葉県支部会報 に じ	VOL . 6 4 2 0 0 6 12 . 15	発 行 日本介護福祉士会千葉県支部 千葉県介護福祉士会 会長 野口渉子 編 集 広報委員会・広報委員長 事務所 〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-3 千葉県社会福祉センター3階 TEL・FAX043-248-1451 TEL・FAX043-248-1515 mail kai5nji@poem.ocn.ne.jp
--------------------------------	---	--

介護保険法改定へ ~そのV~ 福祉用具貸与について



平成18年4月1日より、要支援者および要介護1の者は、その状態像からは利用が想定されにくい種目について、一定の条件に該当する者を除き、保険給付の対象としない。既にサービスを利用している者への配慮のため、同年9月30日までの間は引き続き保険給付を行うことができる旨の経過措置が講じられている。こうした経過措置は本年9月末をもって終了するため、制度改正の内容等に関する利用者の十分な理解を得て、新制度への円滑な移行が図れるよう求めるものである。

平成18年8月14日付事務連絡「福祉用具貸与費及び介護予防福祉用具貸与費の取り扱いについて」より

介護支援専門員の職につく会員のみなさんは、この9月をどのように過ごされたでしょうか。

軽度者に対する福祉用具貸与について、

車椅子（付属品含む） 特殊寝台（付属品含む） 床ずれ防止用具 体位変換器
 認知症老人徘徊感知機器 移動用リフト

これらを保険給付の対象としない改定の経過措置期間が切れるという中で、どれほどの例外が認められたのでしょうか。私も国のQ&Aをぎりぎりまで待ちましたが、例外もあるというだけでは、各自治体担当者は、何も言える状態ではなかったように思いました。特殊寝台で言えば、殆どの方が、今まで使用していた物を比較的低額で購入されたり、自費レンタル品に変更したのではないのでしょうか。身体レベルが要介護1の方より良くても認知症があり、要介護3になった方の特殊寝台貸与は継続的に貸与できるのは矛盾ではないかと訊ねましたが、「きまりなのでしかたがない」との返答でした。釈然としない思いで、自費レンタルをお願いし、「様子を見ましょう」と利用者と話していたところ、以下の通知を目にしました。

11月2日、厚労省は各都道府県介護保険担当部局長あてに「**軽度者に係わる福祉用具貸与の取り扱い及び利用事例の調査**」について通知しました。

今回の制度改正で、軽度者に対してその状態像からは利用が想定しにくい種目は原則的に保険給付対象外としたが、基本的動作ができないと要介護認定データより客観的に判断された場合などは、例外的に保険給付ができるとされている。しかし、こうした例外的な保険給付について、**現行の判断方法では告示で定める基本動作ができないのに対象外となる事例がみられるため、判断方法を検討すべき**という要望が一部自治体から提案されている。(中略)調査を行う。

みなさん、どのように受け止めますか。要は如何にきちんと利用者に向き合い、アセスメントしてプランを作成しているかではないのでしょうか。制度改定も跳ね返す根拠を持てるかと・・・。(KK)

ファーストステップ講師養成研修会に参加して

会長 野 口 涉 子

今年の7月、介護福祉士の専門性を高めるため、資格取得後の研修体系について、厚生労働省は「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」報告書を出しました。介護福祉士の生涯を通じた能力開発とキャリア・アップのカリキュラムと研修の必要性を示したものです。これを受けて、(社)日本介護福祉士会でも、来年度から「ファーストステップ研修会」実施の必要性が高まります。そのために、全国都道府県においては、(社)日本介護福祉士会主催の講師養成が急務になり、前期と後期合わせて5日間の研修会が9月22日～24日と11月25日～26日港区グランパークで開催されました。千葉県からは高崎啓子氏と私が受講しました。

ファーストステップ研修は、介護職としてキャリア・アップするため共通の能力基盤を形成する研修として位置付けられています。実務経験や資格取得方法など、経験能力の違いを補完し、時代の介護ニーズに対応できる力をつける内容になっています。

介護の質を高めるのは、介護福祉士1人ひとりの専門職としての意識付けと仲間の輪づくりが必要になっています。会員の皆様の周りにいます介護福祉士の方へ入会の声かけとお誘いをお願いします。

内容は11科目講義、演習、レポート提出

- 1 科目 利用者の全人的理解、尊厳の理解とその展開
- 2 " 対人援助職の倫理の理解とその展開
- 3 " コミュニケーション技術の応用的な展開
- 4 " ケア場面での気づきと助言
- 5 " 家族や地域の支援力の活用と強化
- 6 " 職種間連携の実践的展開
- 7 " 問題解決のための思考法
- 8 " 的確な観察、記録とチームケアの展開
- 9 " 中堅職員としてのリーダーシップ
- 10 " セーフティマネジメント(リスクマネジメント)
- 11 " 介護職員の健康、ストレス管理

専門職としての学習は、(社)日本介護福祉士会の生涯研修制度における初任者研修そしてファーストステップ研修から始まります。

理事 高崎 啓子

平成18年9月22日より3日間、東京都港区で会長と一緒に受講させていただきました。介護福祉士の初任、現任研修は現在も継続していますが、更にスキルアップし、質の向上・専門性を高める研修が、来年度以降日本介護福祉士会主導で導入されます。内容は200時間で高齢者の尊厳を支えるケアの実現を基に、介護職員の意欲向上・環境の整備・能力開発・社会的評価の向上・介護サービスの質の向上を目的として企画されています。勤務しながらの研修は非常に困難ですし、職場の理解も必要です。時間と費用がかかるので来年までに更に検討を重ね、受けやすい講座にして欲しいと感じました。

18年度初任者研修について

私情編

現任者研修委員会 山本 英清

前号に引き続き初任者研修のコマをいただきましたので、今回は研修内容に関して紹介いたします。

12月23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の仕事とコミュニケーション ・介護福祉士の基本的態度 ・より良い介護を目指した介護技術
12月24日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の展開 ・記録と報告
19年1月14日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士の医学知識 ・福祉用具の意義と活用 ・介護福祉士の法律と関連する制度施策 ・介護福祉士の専門性と職業理解

なお、担当としての思いを少し触れたいと思います(すみません私情で...)

介護福祉士養成の場にいるので卒業生と話しますが、「自分の介護に関する『思い』を実際現場で、なかなか活かせない」と聞きます。このことは卒業生個人の能力故もあると思いますが、介護福祉実践の困難性(勤務環境・人間関係・リスクマネジメント等)によることも多いように感じます。これは私の学校の卒業生だけではなく、国家試験で資格を取得されたかたも含め皆この壁は持つのではないのでしょうか。でもその『思い』が一番利用者の笑顔に繋がると思うのです。だから今持つ『思い(理想・理念、知識)』を現場実践に活かせるようになって欲しいんです。そしてあきらめないで、自信を持って欲しいんです。皆があきらめたら、利用者の生活はとまってしまう。初任者研修はまさにそんな介護福祉士の背中を押し、「その『思い』を、自信をもってしっかり(意図的に)実践してみな。利用者の笑顔が待っているから。でも結果はしっかり見(観)つめてね。」と伝えたい。そして「でも燃え尽きちゃ駄目![イイ(良い)カゲンニね!!]」と、自分にホットできるそんな研修会にしたいと思います。

平成18年度 第3回 千葉県介護福祉士会研修会

テーマ 「職域を越えて高齢者支援」

～虐待防止ネットワーク実践からの報告～

講師 和田 忠志氏(あおぞら診療所新松戸 医師)

(中核地域生活支援センター まつど「ほっとねっと」所長)

日時 平成18年12月17日(日) 10時30分～15時30分

会場 千葉県社会福祉センター 5階



お詫び 「にじ」でのご案内が遅くなりました。

- ①浅野 M男 ②25歳 ③6年
④1年・国家試験受験 ⑤千葉ブロック

- ①氏名 ②年齢 ③介護職歴年数
④介護福祉士歴・年数と資格取得方法
⑤所属ブロック

この仕事は、時間に追われがちで体力的にもとても疲れますが凄く魅力的な仕事だと感じます。ありがちかもしれないけれど『利用者さんの笑顔を見れた時』はとても幸せで『ありがとう』という言葉聞くたびに喜びを感じます。これから先も利用者さんが毎日の生活をSmileで送れる為のお手伝いが出来たら忙しい業務にも幸せを感じながら取り組めると思います。

仕事以外のプライベートの時間も、趣味として始めたよさこいの時間も、最近すごく充実しています。これからも、こんな穏やかな日々が続いてほしいと願っています。

この人紹介

はれときどきにじ

この頃、団塊世代が定年を迎え始め、時の話題になっていますが、私もその世代で振り返ってみると実にたくましく生きてきたような気がします。いま人生の晩秋の候、生い先（老い先）を考えずにいられなくなりました。常日頃、惰性のないケアを心がけ「自分の親ならどうする」と仲間と問い掛け合ってきましたが、いよいよ「自分ならどうしてほしい」と考えなければならない時がきました。前から考えていたはずなのに、わかっていたはずなのに、どこかで避けていた、まだまだと逃げていた。でも冷静にチェックすると、かなり来ている、間違いなく来ています。私の生い先は確かに支えて頂くこと確実です。せつかくケアの仕事で汗しているのだから、今のうちセンター方式でアセスメントしておこうかな？それともICFにしておこうかな？もしかして外国の方にお世話になる場合もあるかもしれない等々、思いを巡らしているこの頃です。ともかく今は、ゆっくり、ていねいに生きて、その時がきたら『良し名』をお願いします。（南部ブロック 鈴木幸子）

■ ■ 訪問介護フォーラム2006年 ■ ■

～改正?! 介護保険制度は持続可能か～

- 日時 平成19年1月14日(日) 10時～16時
会場 千葉県労働者福祉センター大ホール
参加費 1000円 定員 300名
内容 改定介護保険制度、ホームヘルパーの労働条件の検証等、3部構成
問い合わせ 訪問介護フォーラム実行委員会事務局
電話 043-310-0514 FAX 043-310-0521 (締め切り12月29日)

海外研修報告 Part 3



～ E 氏の在宅生活の希望～

デンマークでホームヘルパーに同行し、高齢者の在宅介護を体験してきました。その時のある男性の事例を報告いたします・・・

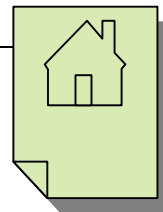
90歳、男性。パーキンソン症状に近いが高齢によるADL低下。数年前に妻が死去してから一人暮らし。E氏の基本援助は日に5回ほど、食事や起床、シャワーと細切れに入る。15分から60分程度と援助内容によって時間が変わってくる。歩行は本人の体調が良い時には、室内を歩行器使用しながら可能だが無理はしない。本人の意志に任せ、無理な時にはすぐに車椅子に変えるよう後ろに付き添って室内を移動する。

本人の希望は妻と生活をともにしてきたこの家で最期を迎えたいと思っていることだ。妻の死を心から悼み、思い出の詰まったこの部屋にすることが一番彼にとって幸せなことである。寝具、家具、キッチン、ピンク色の壁、テーブルクロスとすべてのものは妻がいた頃のままになっており、部屋に入るだけで女性がいるのではないかと思われるほど、女性らしいものが置いてある。本人が使用しているベッドも本人のADLからは起き上がりの難しいベッドをそのまま使用しており、妻が使用していたベッドもそのまま隣に残っている。部屋も4階建ての古いアパートで部屋数が多い。歩けば床がぎしぎし音を立て、周辺の部屋の物音も聞こえてくる。本人のいる4階までは階段しかないため、本人が動けなくなったらは外出していない。ヘルパーなどの訪問者との交流しか無いのである。

本人のADLを見て、在宅生活を継続していくのはとても大変であると感じたが、プライエセンター(特養のようなところ)への生活について本人は選択しなかった。周囲のスタッフはその本人の意志を尊重し、できる限り在宅での生活を継続するための支援を組んだ。「この先歩行もできなくなる時期も来るかもしれないが、本人は今のベッドで最期を迎えたいと思っている。しかし介護ベッドなどの必要性については本人に伝える必要はある。でもまだまだ筋力、体力は維持できている。少しでも動けることが必要だから、できる限り自分のできるところは自分でやってもらって、ADLを維持して欲しい。」と彼のコンタクトパーソン(メインの担当者)であるヘルパーは目を潤ませながら話してくれた。「それが彼の望んでいることであり、彼の幸せである」と。スタッフの「本人が最期まで在宅生活を望むのであれば自分たちはそれをできる限り叶えることが出来る体制を持っている。24時間私たちはサポートすることが可能なのだ」と当然のように答える姿は何とも頼もしかった。

(広報委員長 池田めぐみ)

ブロック活動



千葉ブロック

平成18年度第2回千葉ブロック研修会

9月10日 参加者 41名

今年度2回目の研修会は今までと趣向を変えて、参加して下さった方々の経験や技術を生かし、ベット上でのシーツとパジャマの同時交換をテーマに迅速・安楽に留意して各ベットに分かれて演習していただく形となりました。

回収率100%のアンケート用紙には、受身だった今までの研修に比べ自分達で考えなければならず頭と体をフルに使った有意義な研修でした。今までにない画期的な研修だと思います。素晴らしかった、ありがとう。等のご意見をいただき、主催者側としても達成感の得られた研修になりました。ご参加の皆様、ありがとうございました。(千葉ブロック長 米村 静枝)

東部ブロック

9月30日、松尾ふれあい館において「日常生活をつなぐ移乗・移動の技術」をテーマとした研修会が開催されました。

普段の業務で一連の移乗・移動の技術を使用しているつもりでも、最も基本的な『動き』というものが抜けてしまっていたりと、改めて思い直される内容でした。何事も基本が大事であり、常に介護を受ける方の立場や気持ちを汲み取る事が必要なのだと実感しました。(東部ブロック 加瀬 和則)



東葛ブロック

12月2日(土)に第2回研修会として『口腔ケアを見直そう』と題して、日本大学松戸歯学部附属歯科衛生専門学校非常勤講師を迎えて行いました。

「歯は体を支える大切な臓器」である所以をスライドを交えての講義でした。唾液の分泌が潰瘍や傷を治していく自然治癒力を持っており、いかに唾液を出させていくことの大切さを痛感できました。講義の中でRSTテストを紹介してもらいました。このテストは30秒間に何回唾液を飲み込めるか、を知るテストです。3回以下は危険信号です。(みなさんもやってみてください。)唾液腺を刺激するマッサージ方法として、顎の左右を刺激や左右頬骨下のマッサージ等を実践してみました。介護現場では大切マッサージ方法でした。また、口腔ケアで大切なものとして、舌の働きもあります。誤嚥予防や唾液の分泌を助ける働きもあります。研修会の中で紹介されたのは「パタカラ」運動です。みなさんもゆっくり大きく「パ」「タ」「カ」「ラ」と発音してみてください。良い舌の動きができます。何気なく行える運動で唾液や舌の動きが活発になることによって、誤嚥性肺炎やドライマウス予防につながることを改めて見直せました。また、歯磨きの実習を行い介助される身になり日頃の介助方法を見直しました。

口腔ケアの重要性が言われていますが、「どうして必要なのか。」を中心に今回の研修は行いました。「歯は体を支える大切な臓器」この言葉が、口腔ケアの基本ではないかと感じました。舌の動きや唾液に意識をしてみてください。(東葛ブロック長 堀越 悦雄)

君津ブロック

在宅介護が無理なく優しく！

＜福祉用具の展示・説明・体験会＞



11月26日(日)木更津市民総合福祉会館に於いて、在宅介護にかかわる家族や介護者が福祉用具を上手に活用することで、無理なく優しい介護が出来るよう。また、地域福祉に貢献するというブロック長の思いと業者さんの多大な協力を得て、福祉用具の展示・体験等の研修会を開催しました。

午前中は、介護保険とのかかわり。適切な導入時期。選び方等の講義。午後は、個々の使い方と体験会があり60名余りの熱気と和気藹々の研修会となりました。

参加会員の感想を聞きました。 (M・O)

過去にも数回福祉用具の勉強会に参加しましたが、今回ほど、一度に数多くの福祉用具を体験使用した研修会は初めてでした。嚥下食では「トロミ剤」はまずいと自分で決め付けていましたが、今回の「トロミ剤」は一番自然に感じました。

福祉用具も年々改良されており「コツ」の習得次第では要介護者・介護者 両者にとって優しいケアが出来る事を思い、幅広く豊かな知識の必要性を、強く感じた一日でした。 (原口 由美)

私は「一期一会」という言葉が大好きです。

今日はどんな人に会えるかなと楽しみに参加しました。特に今回の研修は「福祉用具を知って欲しい」という業者さんの熱い思いと「学びたい」と強い意思を持って参加した人とで、充実した楽しい時を過ごす事が出来ました。

これからも皆様に教えて頂く事が沢山あると思いますが、社会の流れに遅れないよう自己学習を積み、丈夫な身体と笑顔と安全運転で、私らしく頑張りたいと思います。 (川崎 恵子)

南部ブロック

「認知症介護のエキスパートになろう」 2006.11.12

研修会で学んだ事をまとめてみました。まずは、認知症の方から見えている世界や感じていることは介護者とは随分違っているという事を感じました。

そして、認知症の方の視点に立ち、介護を行う目線に切り替えることが大切である事、中核症状があり周辺症状が出ても、その行動には、本人なりの意味やストーリーがあるという事、馴染んだ習慣でないと混乱するし、見知らぬ人が触れるのは抵抗がある事も再認識しました。

認知症の方は五感で反応しているという事を理解し、本人が居心地の良いと思う環境、場所を提供すると安心し、残された機能への働きかけをするケアが必要であることも確認できました。

グループワークでは日頃ぶつかっていることをテーマに話し合い、とても気持ちがスッキリしました。認知症の方の心を理解する努力をし、優しくケアをしていきたいと感じた一日でした。

(南部ブロック 川口)

理事会報告

第6回 平成18年10月15日(日)

出席者 7名 委任状 11名

現在の会員数(11月17日現在)

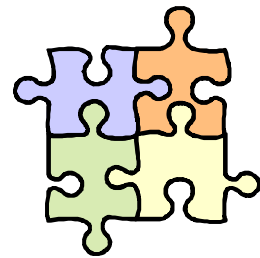
正会員数	853名(会費入金済 623名)
東葛ブロック	243名(" 177名)
千葉 "	319名(" 235名)
君津 "	109名(" 91名)
東部 "	118名(" 63名)
南部 "	64名(" 57名)
準会員	68名

開催済研修会(イベント含)

- 9月10日(日) 介護の日、福祉のしごと就職フェア
 9月23日(土) 介護福祉士受験対策模擬試験(福祉教育カレッジ)
 10月9日(月) 介護支援専門員受験対策模擬試験
 10月15日(日) 介護福祉士受験対策模擬試験(中央法規出版)
 11月5日(日) 介護福祉士受験対策模擬試験(福祉教育カレッジ)

新会員紹介

web版では、省略させていただきました。

**『産休だより』**

初めての出産、育児を通して新しい人とのつながりを経験しています。出産して3週間目、市の助産師さんの『赤ちゃん訪問』を体験。ゆっくりと育児の疑問や不安を聞きアドバイスをしてくれて、私も母も気持ちがとても楽になった。

玄関先でお礼を言いながら、仕事をしていた頃を思い出し、いつもは聴く事が多かったけど聴いてもらえた事がこんなに嬉しいなんて!

職場のみなさんのお陰でお休みを頂き、色々な経験が出来ることに感謝しています。

(広報委員 石井)

編集後記

皆様に介護福祉士会の活動が分かりやすい紙面となることを目指して取り組んでいます。その様子が伝われば嬉しく思います。また皆様の『声』もお待ちしております。(竹村)

